



2021年 12月1日
第89号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

12月1日号

2021年度の年末手当は、満額回答ではなかったものの2・0ヶ月という過去最低額で妥結した。社長は、労働組合と協議する前から会見で、社員の賞与の削減の可能性に言及し、会社内の相場作りを行い、人件費削減を実現した。私たちは21春闘でベアゼロと定期昇級カット、さらに夏季手当と悔しい思いをしてきた。職場の議論は組合員にとどまらず、組合未加入者とも対話を広めてきた。賞与は生活給の一部であり、削減されると生活出来ないという切実な思いを交渉団は会社に突き付けた。しかし会社は「主張は受け止める」としながら「好循環をつくり出すこと」によって還元できる」として要求を退けた。好循環による還元？果たしてそうなのか？

一方、世間ではコロナ禍であるものの経済の回復の基調が見られることや今後脱炭素社会を目指されていることから、原油価格が高止まりしている。原油は、ほとんどの商品に利用されていることから生活に直結する。今後は、冬に向けて灯油やガソリンの需要が高まっていく。そのため、政府は、元売りの会社に対して支援することを決めた。これは世論で、「ガソリンが高くて大変だ」「元売り会社からはこのままでは価格転嫁するしかない」という声を受けてのことだ。しかし、果たして利用者に還元されるかは不透明だ。ガソリン価格は、原油価格の他に消費税とガソリン税などを上乗せしている。その中に暫定税率があり、1リットルあたり25・1円となっている。これがなくなるだけでも、家庭への負担は軽減出来るという声も多くある。コロナ禍で働く者や生活弱者にとって本当に苦しい状況だった。先の衆院選で私は「それでも自民党が選ばれるのか？」と強い憤りを感じた。そしてJR東日本。「過去最高」を記録し続けた好業績の時代にあつては「突出感」を理由に抑え込まれ、業績が悪化すれば「足元の業績」を理由に減額してきたのだ。そして21春闘以降、あまりに人件費削減のみが過剰に追求されていることに怒りを感じる。政府にせよ会社にせよ、弱い者労働者の意見に耳を傾けない訳ではないが、市民生活や労働者の生活実感からかけ離れた「別の共通利害」を優先しているとしたか思えない。その恩恵とは、実は一握りの人々のみ適用されているのではないか。

今、会社内でもモノ言える風土が失われつつある。おかしいという声をあげることが大事だ。ダメなものダメだと言う勇氣が必要だ。一人では無力だ。組織力は数だと、今ほど教えてくれる時代はない。2ヶ月分の賃金がカットされた。それでも我慢しますか。ハラスメントを受けた。それでも耐えますか？・・・諦めて会社を辞めますか？今こそ労働組合に結集してより良い会社にしていくべきではないか。物質力に転化したたかえるのは唯一労働組合だし団結なのだ。

(Y・H)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。